

群馬県高等学校教育研究会音楽部会「令和3年度第2回授業研究会」

日 時	令和4年 1月18日 (火)
会 場	群馬県立太田フレックス高等学校 (オンライン)
教科・科目	芸術科・音楽Ⅱ
題 材 名	「和太鼓曲を創ろう」
指 導 学 級	普通科 選択②
授 業 者	木部 誠 教諭



1 開会行事

(1) 挨拶

① 小松 祐一 先生 (群馬県高等学校教育研究会音楽部会長)

本日は木部教諭による新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業が拝聴できると期待している。同時に、今後の授業改善に関しても部会員の先生方による意見をいただければと思う。特に、班別協議での活発な授業研究や情報共有をお願いしたい。また、会場校の太田フレックス高等学校塚越正美校長先生をはじめ、会場校の先生方には本部会行事に協力いただき、厚く感謝申し上げます。本日の授業研究会が、参加者の先生方の知見を広めるとともに研鑽の場となり、本県の高校音楽教育の発展につながることを祈念する。

② 島田 聡 先生 (群馬県教育委員会事務局高校教育課指導主事)

本日の授業研究会は、先生方の計画的・継続的な授業改善の取組として大変有意義な機会となると思う。これまで本部会では、新学習指導要領の全面実施に向けて様々な準備をさせていただいており、大変ありがとうございました。改めて感謝申し上げます。もちろん、疑問や課題もまだ多くあると思うが、こうした研修の場などで、力を合わせてともに考えながら今後も研究を重ねてほしい。本日は授業を直接に目の前で拝見できないオンライン開催であるからこそ、より客観的な視点から授業について考えられると思う。新学習指導要領の全面実施前最後の授業研究会となることから、実りの多い研修としていただきたい。

(2) 授業説明 (木部教諭)

本校は別添資料の通り、様々な課題を抱えている生徒が多い。外国籍の生徒は日本語に不安があったり、過去に母国の学校で音楽を学んでいなかったりする場合もある。また特別な配慮や個別の支援を必要とする生徒も少なからず在籍している。そうした様々な生徒へ配慮するため、授業の構成を工夫している。本日の授業も、前半はスタートメニューや写譜などの毎時間行っている学習を取り入れている。題材との関連が分かりにくいと感じる先生もいらっしゃるかもしれないが、生徒の心の安心のために行う学習であることを理解いただきたい。また、前時の授業内容の復習も行いながら進める予定である。

器楽の題材として和太鼓を扱った授業は10月から取り組んでいた。その学習から発展させた本題材では、和太鼓の特徴を生かした創作を行う。和太鼓の演奏の様子や、前時の授業の内容についても事前にホームページや動画で公開しているため、それらも併せて生徒の成長も確認しながら参観いただきたい。



(3) 研修係より

新学習指導要領への円滑な移行に向けて、移行期間にあたる令和元年度からの3年間は、「授業研究会」及び「夏季研究会」、「部会講演会」を統一した研究テーマの下で開催してきた。今年はそのまとめの年度として、来年度からの新学習指導要領による取組を推進できるようにしたい。研究授業後の授業研究については、下記の視点から協議を行ってほしい。

【研究テーマ】

「現行学習指導要領を基とする取組の充実」及び「新学習指導要領の理解と実践」

【授業研究の視点】

1. 本時における学習内容は、「指導事項」とどのように関連するか
2. 本時の学習目標を達成することで、どんな「育成を目指す資質・能力」が身に付くか
3. 本時の展開で、「主体的・対話的で深い学び」となっていた場面はどこか

2 研究授業 学習指導案参照



3 授業研究

(1) 授業者より趣旨説明等（木部教諭）

本日は生徒のグループ学習を中心に行った。生徒の個人差もあるため、全体への指導を行った後にグループ学習の中で、各生徒に応じた指導・支援を行うようにした。前半のスタートメニューや写譜の学習により、生徒たちの思考を音楽の授業に向けたため、その後の本時の学習に取り組みやすくなっていたと思う。また前回の授業の復習を行った上で本時の学習を行った。予定ではもう少し学習を深めたかったが、生徒の取り組み状況を見ると、本時のようなまとめでよかったのではないかと考えている。

各生徒はChromebookを使用し、ブラウザ上の無料の音楽アプリケーションであるMusiccaのドラムマシンを活用しながら自分たちで自由にリズムを作り、イメージに合うリズムモチーフを探そうと試行錯誤する姿が見られたことがよかった。自分の気持ちを伝えることが難しい生徒が多い中、生徒同士で話し合いながら学習を進められていたと感じる。

この後の班別協議では、ぜひ忌憚のない意見等をいただければありがたい。



(2) 研究協議①（班別協議） Jamboardによる班別協議資料参照

(3) 研究協議②（全体協議）

1班：川上（伊勢崎）、須田（吉井）、田中（高高特）、小野澤（太高特）

- 本時における学習内容は、「指導事項」とどのように関連するか

- ・グループで曲のイメージを共有したことがリズムの工夫につながっていた。
- ・リズム表や過年度の作品の映像を参考にして、創作表現に活かすことができていた。
- ・ドラムマシンで聴覚的に確かめながらリズムを工夫した創作につながっていた。
- 本時の学習目標を達成することで、どんな「育成を目指す資質・能力」が身に付くか
 - ・ドラムマシンを活用することによって、リズムについての記譜の知識と技能を習得することができる。
- 本時の展開で、「主体的・対話的で深い学び」となっていた場面はどこか
 - ・導入のスタートメニューで生徒の気持ちをほぐし、授業に主体的に取り組めるような工夫が行われていた。
 - ・クラス全体が和やかで意見を出しやすい雰囲気だった。
 - ・考えたリズムを机で叩きながら同じグループ内で話し合ったり、出し合った意見を尊重し合ったりしながら楽しんで創作活動を行っていた。

2班：斎藤（渋谷）、黒岩（高崎）、荒木（吉井）、須田（渡良瀬特支）

- 本時における学習内容は、「指導事項」とどのように関連するか
 - ・表したいイメージから音素材の特徴を生かして思考を深められていた。
 - ・生徒が表したいイメージに対して、例となるリズムを提示してみせていたので、音型などの特徴を理解しやすかった。
 - ・創作表現に関わるこれまでの知識を生かしながら、様々な手法を活用しようとしていた。
- 本時の学習目標を達成することで、どんな「育成を目指す資質・能力」が身に付くか
 - ・和太鼓特有のリズムを知覚しながらイメージに沿ったリズムモチーフを、表現意図をもちながら創作している姿が見られた。
 - ・形にないものを形にする力が身に付いていて、将来仕事に就いたときにも役に立つものだった。
- 本時の展開で、「主体的・対話的で深い学び」となっていた場面はどこか
 - ・教員のアドバイスをもとに、グループで協働して一つの曲を作ろうとしていた。
 - ・人任せにするのではなく、学習に主体的に参加して、グループのメンバーとしての責任をもっている様子が見られた。

3班：五十嵐（長野原）、角田（安中総合）、富岡（安中総合）、野口（太高特）、柳田（館高特）

- 本時における学習内容は、「指導事項」とどのように関連するか
 - ・Chromebook の導入により、ドラムマシンを使って自然に反復を感じながらリズムの重なりを工夫する学習がスムーズに行われていた。
 - ・偶然できたリズムを次につなげやすいように、生徒の発言も生かしながら上手く助言をして進めていた。
- 本時の学習目標を達成することで、どんな「育成を目指す資質・能力」が身に付くか
 - ・伝承方法について、伝統芸能が記譜によって受け継がれていくものだという意識できる。
 - ・過年度の作品を参考にしたり、既習事項を活用したりしながら、音楽表現を創意工夫している。
- 本時の展開で、「主体的・対話的で深い学び」となっていた場面はどこか
 - ・全体を通して一人ひとりが発言をしていたので、生徒が主体的に活動できていた。
 - ・生徒同士で対話をしたり、過年度の作品を通して対話的に学んだりしていた。
 - ・過年度の作品を鑑賞することで、より深く理解することにつながっていた。
 - ・様々な実態の生徒がいる中、進め方を工夫して一人ひとりが活躍できる授業になっていた。

4班：大和（西邑楽），坂本（館女），松平（尾瀬），西田（赤城特）

- 本時における学習内容は、「指導事項」とどのように関連するか
 - ・グループで楽曲のイメージを共有することで、「リズム」や「構成」をどのように工夫するかということを考えることにつながっていた。
 - ・ドラムマシンを活用したことで、生徒は反復・変化・対照などの構成について意識できていた。
 - ・リズムモチーフをどのように変化させるかという、次への見通しをもつことができていた生徒がいた。
 - 本時の学習目標を達成することで、どんな「育成を目指す資質・能力」が身に付くか
 - ・リズムや音価の知識が体験的に身に付くようになっていた。
 - ・話し合いを重ねることで、コミュニケーション能力が身に付くようになっていた。
 - ・創作した曲を演奏するためにはどのようにしたらよいかという問いから、楽譜の必要性について生徒が自然に気付くことができており、必要感をもって創作表現を創意工夫するための技能を身に付けることができていた。
 - 本時の展開で、「主体的・対話的で深い学び」となっていた場面はどこか
 - ・イメージからリズムや構成を考える際に、同じ班で反対の意見が出ていたが、そう考えた根拠をもとに話し合いが進められており、深い学びにつながっていた。
 - ・全体を通して、導入の場面も含めて音楽Ⅰ、Ⅱの知識の積み重ねが表れている授業だった。
- (質問) 提示されたリズムパターンが少し難しいようだったが、生徒は理解して使っていたのか。

→生徒の多くは楽譜としては見慣れてはいるが理解はできておらず、活用するのは難しい。参考として示してあるが、それだけに頼らないようにするねらいもあった。実際に活用しようとしたときに演奏できないため、自分たちが演奏できるように変えていくということである。あくまでも参考例であり、どのように活用をするのかは生徒自ら考え、オリジナルのリズムパターンを創作できるようにすることがねらいでもあった。

4 指導・助言等

(1) 島田 聡 先生（群馬県教育委員会事務局高校教育課指導主事）

木部先生自身が授業を楽しもうとしている雰囲気、生徒へ伝わっていると感じる授業であった。特に、明るく前向きな人柄が、声のトーンや話し方、生徒の間を自由に行き来してコミュニケーションをとる様子、そしてその際、しっかり生徒の目線に合わせて自然に腰をかがめて対話する様子などが印象的であった。教員と生徒という関係以上に、共に音楽を創り楽しむ仲間として生徒とともに学ぶ姿勢が根底にあるように感じられた。

このように、目に見える形が目線合わせ以外にも、指導の内容としても、生徒が安心して授業を受ける工夫があったと思う。例えば、あるグループでワークシートの②について思考する場面において、生徒から「春」という言葉を引き出しながら「重くならないよう、さわやかな感じかな」と、より具体的なイメージが生徒から出てくるよう提案しつつ、「それでは、テンポはどうする？」というように、コミュニケーションの中で自然に音楽的な学びへと誘導していた。何気ないやりとりに見えても、きちんと指導や支援へとつなげていく対話は、様々な背景をもつ太田フレックス高等学校の生徒にとっては大切であるということを感じた。時として、学校生活を送る上では、皆の中で指名をされるなどの緊張を強いられる場面が多くあるが、本日の授業では音楽の学びが生徒の日常、つまり素の生徒の世界とシームレスにつながっており、木部先生と生徒が信頼関係で結ばれていると感じた。これは冒頭に申し上げたように、共に音楽を創り楽しむ仲間の関係を積

み上げてきた成果だと言える。この成果の手立てとして、授業の冒頭で拝見したスタートメニューと写譜があると考える。学校の状況や生徒の実態に合わせた授業の組立てを試行錯誤する中で、スタートメニューと写譜という形で、身体を使って基礎的な技能を高めたり、楽典的な内容について理解したりすることは、年間を通じた学びを下支えしていると感じた。

本日御参加の先生方には大変熱心に協議と発表をいただいた。その中で、「楽譜が必要であることに気がつき、必要感をもって創作するための技能を身に付けることにつながる」という意見があった。本時の展開は、表したいイメージをグループ内で共有しながらリズムモチーフを創作するという学習であったが、生徒は楽譜を用いることへの必要感ももっているが、リズムモチーフを創作することそのものについての必要感はまだもっていなかったように感じた。先生方には、生徒がその必要感をもっているかどうか、あるいは、どのような手立てによって必要感をもてるかについて考えてもらいたい。例えば、写譜で扱った「歓喜の歌」の旋律の構造から、リズムの反復や変化に気付くことが可能である。また、過年度履修者の演奏の中にもリズムの反復が見られたため、その演奏を聴取して気付いたことを問いかけることも、一つの手立てとなる。もし、なかなか気が付きがたいようであれば、実際にその作品を演奏することで、リズムの反復に気付く手立てとすることもできる。生徒理解に基づいたこのような手立てによって、小さいリズムモチーフから大きい楽曲を創作していくという意識付けを行ってもよい。

また、本題材は五線譜によるリズム創作であったが、和太鼓の楽曲という特性から、口唱歌を用いて創作することも考えてもよい。五線譜と音符により創作した作品を口唱歌に置き換えるということからでもよいが、口唱歌は、音符だけでは表せない音の質感や強弱、演奏法も同時に共有できることに気付くと、学びがより発展的になる。来年度の授業を見据えて、生徒と先生の関係性、そして題材全体や年間の指導計画の中でのスタートメニューの位置付けなど、御自身の授業を見つめる視点としてもらいたい。

(2) 荻野 葉子 先生（群馬県高等学校教育研究会音楽部会副部長）

生徒への支援や言葉かけが非常に温かい授業であった。生徒とのコミュニケーションが丁寧に行われ、それが主体的な取組の支えとなり、生徒が安心して学習できていたように感じる。そして、本時の学習内容を授業の始めに提示されていたため、生徒が目標をもって取り組むことにつながっていた。個人での写譜の学習や、グループでの創作の学習等を通して、生徒自身が自分の成長を感じられる場面があり、その達成感の積み重ねが次への学びへとつながっていた。また先生と生徒との対話の中で、生徒は自分が認められている実感をもっていたと感じた。

一方で、生徒が話を聞く場面と活動する場面とを分けるとより学習が深まる授業となると感じた。生徒が活動する場面では、最初は自信がない様子であった生徒が、先生の助言によって明るい表情に変わる様子も見られた。過年度履修者の演奏を参考にすることにより、最終的な目標を意識できるようになっていた。また、グループ学習では、学年を超えてグループ分けが工夫され、それぞれの生徒のよさが発揮されていたが、その学習過程の中で自分たちの取り組み状況を発表し、共有する時間があるとさらによかった。本日の授業では、生徒と先生の間関係のよさが授業全体を通して伝わってきたとともに、生徒一人ひとりが達成感をもって創作に取り組み、次への目標をもつことができたと感じる。

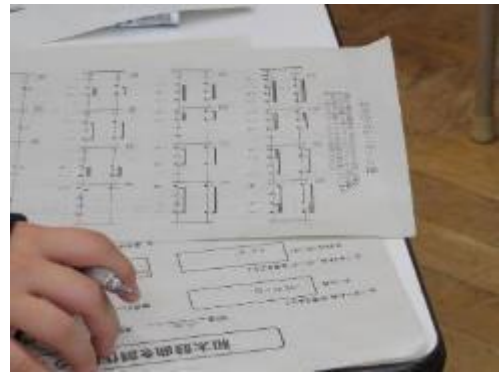


※授業者より補足等（木部教諭）

本時では、生徒は楽譜やリズムモチーフの必要性をあまり感じていなかったと考えられる。次時は本時の内容を振り返りながら、生徒が楽譜の代わりに書いていた自分のメモ書きをもとに演奏を行うことから始める予定である。そのため、今後の授業でそれらの必要性を感じられる場面を設けていきたい。また、過年度履修者の楽譜を見て演奏したことがあるため、見やすい楽譜の必要性の実感をもっており、音楽を伝えていくものとして必要だという意識はあるのではないかと思う。その他、口唱歌で記譜する方が行いやすいと考えている生徒もいるため、生徒の実態に合わせて口唱歌での楽譜をつくることも行っている。

リズムモチーフについては、過年度履修者の作品からその必要性を気付けるようにするとよかったと感じた。しかし、ドラムマシンを使ってリズムを創作したときに、「このリズムモチーフを繰り返すと10月に取り組んだ曲になる」ということに気付き、次への学習につながっていた生徒もいた。ドラムマシンがリズムを反復するため、それに重ねるリズムについては考えやすかったと思う。先を見通した学習計画を立てることで、リズムモチーフの大切さを生徒が意識できるようにしていきたい。

グループ分けについては、遅刻や欠席の生徒に配慮はしながら、まとめられる生徒が各グループに入るようにしている。その他の生徒がリーダーになってくれるとよいというねらいもある。本時の授業では、様々な問いを個別の生徒に投げかけたが、その意図を先生方に御理解いただき嬉しく思う。今後、題材のまとめに向けて生徒を育て、最終的な生徒の成長の姿や作品を、ホームページ等を使用した限定公開などで確認いただければと考えている。



5 閉会行事

(1) 挨拶

荻野 葉子 先生（群馬県高等学校教育研究会音楽部会副部長）

本日の授業研究会は、お引き受けいただいた会場校の太田フレックス高等学校塚越正美校長先生をはじめ、指導・助言をいただいた指導主事島田聡先生、授業準備及び研究授業を行っていただいた木部誠先生、そして、参加者の先生方や運営にあたってくださった多くの先生方の御協力により開催させていただくことができた。皆様に感謝を申し上げます。

6 参加者（敬称略 順不同）

小松 祐一（吉井）	荻野 葉子（館林女子）	島田 聡（高校教育課）	黒岩 伸枝（高崎）
須田 諭美（吉井）	荒木奈都子（吉井）	川上 寛子（伊勢崎）	木部 誠（太田フレ）
松平 康子（尾瀬）	坂本 将（館林女子）	斎藤真里奈（渋川女子）	角田 幸枝（安中総合）
富岡 恵美（安中総合）	五十嵐桃子（長野原）	大和美由希（西邑楽）	西田えりか（赤城特支）
田中ちひろ（高高特）	小野澤 友貴（太高特）	野口 瑞穂（太高特）	柳田絵美子（館林高特）
須田 玲子（渡良瀬特支）			

文責：坂本 将（館林女子）

芸術科「音楽Ⅱ」学習指導案

日 時：令和4年1月18日（火） 第3限

対 象：音楽Ⅱ②履修者（12名/16名）

授業者：群馬県立太田フレックス高等学校

教諭 木部 誠

場 所：音楽室（特別第2棟3階）

1 題材

（1）題材名

「和太鼓曲を作ろう」

（2）教材

指導者自作映像，過年度履修者の作品動画，プロフェッショナルの演奏団体による演奏動画

（3）本題材で扱う学習指導要領の内容

音楽Ⅱ A表現 （3）創作

ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，個性豊かに創作表現を創意工夫すること。

イ 音素材，音を連ねたり重ねたりしたときの響き，音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について，表したいイメージと関わらせて理解を深めること。

ウ 創意工夫を生かした創作表現をするために必要な，次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。

(ア) 反復，変化，対照などの手法を活用して音楽をつくる技能

(ウ) 音楽を形づくっている要素の働きを変化させ，変奏や編曲をする技能

[共通事項]

本題材において，生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「リズム，構成」

（4）題材の目標

ア 和太鼓の奏法を生かし，音素材，音を連ねたり重ねたりしたときの響き，音型などの特徴及び構成上の特徴について，表したいイメージと関わらせて理解を深め，創意工夫を生かした創作表現をするために必要な，反復，変化，対照などの手法を活用して音楽をつくる技能，及び音楽を形づくっている要素を変化させ，変奏や編曲をする技能を身に付ける。

イ 和太鼓特有のリズムや構成を知覚し，それらの働きを感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，どのように音楽をつくるかについて表現意図をもつ。

ウ 和太鼓特有のリズムや構成，及び楽器の特性や音色，表現方法に関心をもち，主体的・協働的に創作の学習活動に取り組むとともに，日本の伝統音楽に対する感性を豊かにし，音楽を愛好する心情を養う。

2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 音素材，音を連ねたり重ねたりしたときの響き，音型などの特徴及び構成上の特徴について，表したいイメージと関わらせて理解している。</p> <p>技 創意工夫を生かした創作表現をするために必要な，反復，変化，対照などの手法を活用して音楽をつくる技能，及び音楽を形づくっている要素を変化させ，変奏や編曲をする技能を身に付け，創作で表している。</p>	<p>和太鼓曲特有のリズムや構成を知覚し，それらの働きを感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。</p>	<p>和太鼓曲特有のリズムや構成，及び楽器の特性や音色，表現方法，楽器の種類による役割に関心をもち，主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。</p>

3 題材の考察

(1) 題材設定の理由

本校は，不登校を経験した生徒のほか，海外で教育を受ける中で音楽の授業を経験していない生徒など，学習の積み上げがない生徒なども多く在籍している。こうした多様な背景をもつ生徒に配慮し，表現の題材では，次のように指導計画を工夫している。具体的に音楽Ⅰではグループでの歌唱から始め，スモールステップで器楽・創作へと進み，表現することが自然とできるように題材を構成し，音楽Ⅱでは個人での歌唱から始め，グループで演奏して一つの楽曲を仕上げる（他者を意識して協調しながら演奏する）学習を和太鼓による器楽表現で行ってきた。

これらの学びの集大成として，本題材では「和太鼓曲の創作」に取り組む。これは，後期の学習で扱った和太鼓の音色とその特徴，また楽曲の構成と強弱の関係などについて実感を伴って学んだことを生かして創作するものである。このような年間指導計画への位置付けによって，生徒たちは，既存の楽曲では表現できなかった「自分たちの和太鼓の音色を存分に生かすことができる楽曲」，「自分たちの表現（和太鼓の演奏に特有の身体の動き等）を存分に発揮できる楽曲」を，グループで協力し対話を通して創り上げていけると考えた。

また，海外にルーツをもつ生徒にとっても，和太鼓の表現の特徴に触れることで，我が国に伝わる伝統音楽の奥深さや現在も伝承される所以も含め，その魅力を考えてほしい。さらに，本題材を通じた学びが，本校卒業後に地域や社会などのチームの一員として活躍するに当たる際の，心の基盤としてもらいたいと考え，本題材を設定した。

(2) 生徒の実態

10月からの後期の授業において和太鼓の器楽表現に取り組んでおり，その際の生徒の学習の状況をそれぞれの観点で示す。

ア 知識・技能

生徒各自が和太鼓について理解を深め，音色や楽器の特徴，楽曲の構成やリズム等を知識として理解を深めた。また，得た知識を生かして，実際の演奏でどのように芯のある音を出すかについて様々な方法を試し，身体の使い方等を実感しながら身に付けた。その際，音の強弱とパフォーマンス（表情や身体の動

き等)の関係についても、客観的に鑑賞した自分たちの演奏と、適宜鑑賞したプロフェッショナルの演奏団体の演奏を比較したりすることで体感できた。しかし、実際の表現となると、恥ずかしさからか得た知識や身体の使い方等の技能を演奏に生かしきれずに、自分たちの表現意図を上手に伝えられないという課題が見られた。

イ 思考・判断・表現

個性豊かな和太鼓曲を演奏するためには、リズムの掛け合いや音の強弱の他、グループで演奏する際のかけ声等について効果的な表現方法を考えることが必要であるため、それらを効果的に生かすにはどのようにしたらよいかを仲間との話し合いの中で自ら考え、試行錯誤しながら演奏に取り組んだ。毎時間のこのような学習過程を経て、生徒は思考・判断したことを自らの演奏に生かす工夫を、意識して取り組めるようになった。しかし、生徒の中には依然として受け身になってしまったり自分を抑えてしまったりし、思考・判断したことを仲間に伝えられない場面も見られた。

ウ 主体的に学習に取り組む態度

音楽Ⅱを履修している生徒は、音楽Ⅰの履修時のフレックス発表会（毎年12月開催）で、当時の音楽Ⅱ履修者による和太鼓の演奏を一番近いところで鑑賞している。その時に「私も来年和太鼓をやってみたい」と思う生徒が多く、和太鼓の学習には他の題材に比べて積極的に取り組む様子が見られる。その一方で、実際に演奏してみると、その難しさや身体への負担など想像と異なる部分も多く、気持ちが揺らいでしまう生徒もいる。しかし、継続した取り組みにより、真剣に「憧れられる演奏をしたい」という思いが強くなり、学習の最終段階には積極的に取り組む生徒が多くなった。

(3) 教材選択の理由

和太鼓曲は、後期からスタートした器楽（和太鼓）の延長として、生徒自身が苦労して身に付けた器楽の様々な知識や技能を生かして取り組めるものであるため、器楽から発展させた創作の教材として適していると考え。また、和太鼓を演奏する際に「仲間と協力して取り組む」ことを実感しており、協働的に楽曲を創作することについても、これまでの学習の延長上に位置付けられると考え、教材を選択した。

(4) 題材の系統性

12月に開催したフレックス発表会での披露を目標に、10月から器楽の学習として和太鼓曲2曲（「からっ風」「ぶちあわせ太鼓」）に取り組んだ。その延長として取り組む本題材では、創作した楽曲を、次年度以降の和太鼓の学習の際、教材曲として活用することで、我が国における伝統音楽の継承について考えるきっかけとするなど、学習内容に対する生徒それぞれの目標をより明確にし、主体的に学習に取り組む態度の醸成を促したい。

4 指導と評価の計画

次	時間	○学習のねらい ・主な学習の内容	知・技	思	態
			【 】内は評価方法		
1		題材の見通しをもち、和太鼓曲演奏の経験を元に、楽曲の元となるリズムモチーフを創作する。			

次 リズム	1 ○ 題材の見通しをもち、グループで表したいイメージを共有しながら、それに見合ったリズムモチーフを創作する。 ・本題材の創作の学習の目標を設定する。 ・授業で視聴した参考動画やリズムパターン表、実際に演奏した楽曲などを参考に、楽曲の元となる2小節程度のリズムモチーフを各自で創作する。 ・グループで作品の表したいイメージを共有する。	知 【WS】		
2 次 構 成	リズムモチーフを元に、グループ内で対話を重ねて楽曲を完成させ、構成を工夫する。			
	2 ○ グループ内で相談しながら、各自のリズムモチーフを元にグループ創作曲の第一案を創作する。 ・各自が考えたモチーフを出し合い、一つの楽曲となるよう、リズムの順番を変えたり反復させたりして構成を工夫する。 ・グループの意見を反映した第一案の楽曲としての完成を目指して創作する。	知 【WS】	思 【WS】 【観察】	
	3 ○ 第一案の楽曲を、グループで表したいイメージにより合うような表現となるよう構成の工夫を考える。 ・グループで表わしたいイメージと楽曲が一致するように実際にChromebook等で音を再生し、印象を確認しながら推敲を重ねる。 ・実際に締太鼓・長胴太鼓で演奏しながら、構成に合った強弱等の表現を工夫し、技能に応じた修正を加えるなど、グループで意見を出し合いながら創作する。	技 【演奏】	思 【WS】 【観察】	
	4 ○ 演奏の経験を元に、創作した楽曲の魅力を最大限表現できるよう、表現意図に合った構成工夫を考える。 ・創作作品発表会に向けて、グループの演奏を動画で撮影し、客観的に確認するなど、題材の初めにグループで共有した表したいイメージや目標と一致するように創作する。	技 【演奏】	思 【WS】 【観察】	
3 次 リ ズ ム ・ 構 成	創作した楽曲の発表や鑑賞を通して、改めて和太鼓の楽器や楽曲の魅力と奥深さを感じ取る。			
	5 ○ 創作した楽曲を、グループで表したいイメージが伝わるように工夫して表現する。 ・創作作品の発表会を行う。 ・他のグループの作品に対して、楽曲のリズムや構成、また音色や強弱などの各観点で講評等を行う。	技 【演奏】 知 【WS】		 態 【観察】 【WS】

5 指導方針

本題材では、思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素として、リズム及び構成を扱う。そのため、指導と評価の一体化を図りながら適切にそれらの要素と関わらせた学習ができるよう、題材を3つのまとまりに分けて計画した。第1次では、リズムに着目してモチーフを創作する中で、題材の目標を把握する。第2次では、創作したリズムモチーフを基に構成を工夫し、得た知識を演奏に生かす技能を身に付ける。第3次では、「創作発表会」における他のグループの演奏の聴取を通して、リズム及び構成の関わりについての理解を促し、題材のまとめとする。

本題材は、音楽Iからつながるまとめの学習となる。生徒は表現することに慣れ、グループで活発に意見交換ができるようになってきている。こうした生徒の成長をより生かすことができるよう、これまで演奏で親しんだ和太鼓を扱い、グループで創作することについて、以下の点を配慮する。

- ① 自作の楽曲であることを生かし、自分たちの表現意図を表現するためのリズムや構成の工夫を実現すること。
- ② 自分たちの意見をしっかりと反映した楽曲を創作できるよう、グループ学習においても個別に対応したり、問いかけを工夫したりすること。
- ③ ②を通じて、各自が自分の考えをきちんとグループ内の他者に伝えられるようにすること。

また、過日の発表会（動画発表）で「十分な学習ができた」と感じている生徒もおり、本題材の和太鼓曲の創作を通して、和太鼓への興味・関心を深めるとともに、自作の楽曲であるからこそその「和太鼓の表現における可能性」を探究させたい。

なお、本題材では、継続的に段階を踏んだ授業を進めるため、また、いつでも授業を各自が振り返ることができるよう、他の題材同様、映像教材等を用意した。生徒全員が、題材のまとめである「創作発表会」に取り組めるよう、個の事情にも配慮した指導を展開したい。

6 本時の学習

(1) 目標

グループ内で相談しながら、各自のリズムモチーフを元にグループ創作曲の第一案を創作する。

(2) 使用教材・機械

自作の映像教材、ワークシート、Chromebook、リズムパターン譜

(3) 展開（指導計画：2時間目）

	○学習のねらい ・主な学習活動	◇支援及び指導上の留意点 ■評価規準と【評価方法】
導入 ①	○ 音楽の授業の始まりを意識する。 ・出席確認 ・チェックシート記入 & 検温	◇「検温」の際の机間巡視で、個別に様子を 観察したり対話したりすることで、生徒の気持ち が授業に向かうよう支援する。
20分	・スタートメニュー ① 身体ほぐし ② 笑顔の練習 ③ 腹式呼吸の練習	◇「スタートメニュー」では、指導者も生徒とともに一緒に活動することで、しっかり楽しく取り組む雰囲気を 作る。また、場面ごとで必要な声かけを行う。

<p>導入 ② 15分</p>	<p>○ 楽曲の雰囲気や音の特徴を意識しながら、時間内に課題曲を写譜する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写譜（タイムトライアル形式） <ul style="list-style-type: none"> ① 写譜の方法の確認 ② 課題の音名の確認 ③ 課題の楽曲の構成等の確認 ④ 写譜（15分） ⑤ クラス全体で完成した楽譜を確認 	<p>◇「写譜」の方法等を意識できるよう、最初に全員で確認する。その際、前時に「できなかったこと」をフィードバックし、今回はその部分を意識できるよう声かけを行う。</p> <p>◇単に写すだけの活動とせず、楽曲の雰囲気や音の特徴を意識できるよう、生徒の写譜中に歌ったり、ピアノを演奏したりする支援を行う。</p> <p>◇机間巡視を丁寧に行い、個別につまずきが解消できるような支援を行う。</p>
<p>展開 50分</p>	<p>○ グループ内で相談しながら、各自のリズムモチーフを元にグループ創作曲の第一案を創作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の復習をした後、グループに分かれ、各自でモチーフを出し合い、一つの楽曲として完成するようリズムの順番を変えたり、反復させたりといった構成を工夫して創作する。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの意見を反映した第一案の楽曲としての完成を目指して創作する。 	<p>◇自分の意見を言えずに受け身になってしまっている生徒には、グループ内で一緒に考えるスタンスで話し合いに参加し、それぞれの意見に耳を傾けられるような支援を行う。</p> <p>■思【ワークシート】【観察】</p> <p>◇楽曲としての「形」にまとまらないグループに対しては、そのグループの意見を聴きながら、いくつか案を提示し、第一案が完成できるよう支援する。</p> <p>■知【ワークシート】</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>○ 本時の活動を振り返り、次時の活動について確認して目標をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りと次時の確認 ・チェックシートの記入 	<p>◇各グループの様子を伝え、それぞれよいところを認め合いながら振り返りができるよう、問いかけや意見の聴取方法を工夫する。</p> <p>◇次時の活動で「必ずここまでできるようにする」ということがしっかり意識できるよう、具体的な目標を伝える。</p>

群馬県立太田フレックス高等学校

芸術科（音楽）の指導について概略

本校は、特別な配慮や個別の支援を必要とする生徒や、日本語の指導を必要とする外国籍の生徒など、様々な状況の生徒が在籍する。このような生徒にとっては、「90分という長い時間の授業」で、最後まで集中力を持続させることが難しい場合もある。一方で、「授業の見通しをもてると集中できる」、「仲間と協力しながらであると活動に参加できる」という側面も見られる。そのため、授業では、その日の活動が視覚的に目で理解できるような「見える化」を実践している。また、彼らの中には「パターン化された活動には安心感をもって落ち着いて活動できる」という生徒もいるため、「枠組みのあるパターン化された授業」を心がけている。もし、視覚化された授業メニューへの理解が追いつかなくても、実際の活動で「この活動が始まったから、次の活動はあれだな。だから、あと少しで授業のまとめだな」というように判断できるようにするためもある。そのため年度当初は、授業始めに「スタートメニュー」と「写譜」を、その後に本時の学習を、そして最後に「鑑賞」を行う授業スタイルの定着を目指し、繰り返し授業を行った。また、活動を細分化することで「生徒が活動に集中しやすい状況」を作るようにしており、全ての活動に集中することが難しくても、いずれかに集中して取り組めるよう、学習のねらいや評価の観点の視点も複数設定するようにしている。

「スタートメニュー」は、「身体ほぐし」を最初に行い、気持ちをリセットさせたり新しい気持ちで授業に臨ませたりするための準備として位置付けている。次に「笑顔の練習」は、自分自身を表現する経験が少なく、表情を動かすことが困難な生徒も多いため、「歌唱等の表現には表情筋を動かすことがとても大切」ということを伝え、「表現をすることに慣れる」ことを目的として行っている。また「腹式呼吸の練習」は、表現することが苦手な人で前で話すことに不安を感じる生徒もいるため、「声を出すためにはお腹から声を出す。そのためにはたくさん息を吸おう」ということを伝え、身体を意識した表現をするための準備ができるようにしている。この活動により、生徒は恥ずかしさを捨て、次第に前向きに表現ができるようになり、音楽の授業をスムーズにスタートできるようになってきている。

「写譜」については、少しでも楽譜や音高、リズムなどに慣れ、授業で扱う西洋の音楽に自然と慣れ親しめるようにする意図がある。実際に音符に音名を書いたり、声に出して音高を確認したりして、楽譜を写す過程で音楽の構成も理解できるように工夫している。こうした学習により、生徒の気持ちは「音楽の授業」に完全に集中できるようになる。音楽Ⅱの「写譜」では、「しゃくなげ」等に掲載されているような身近な音楽を扱うことで、様々な楽曲を「楽しみながら理解する」ことに加え、「コード」も記載させることで、その楽曲の「キー・ダイアトニックコード・パワーコード・形式等」も意識できるように工夫している。この一連の学習を授業のルーティンとして行うことで、多様な生徒も一同に学習に取り組めるようになってきている。このように、本校の90分という授業の特性を生かし、「導入」の部分の学習を丁寧に行うようにし、安心して活動に参加できるよう工夫している。

また、多様な生徒の理解を促すために、活動の全てを基本的に「視覚提示」できるようにしている。聴覚情報よりも視覚情報による情報収集の能力が高い生徒も多いため、「視覚提示」を行いながら「聴覚も刺激」し、生徒の反応を見ながら補足説明を繰り返すことで、学習内容がより生徒の印象に残るような工夫を常に行っている。また、課題や評価についてもスモールステップにより設定し、一つの題材内で充分時間をかけて、多くの学習場面を設定して解決できるよう配慮している。それと同時に、授業中における生徒との対話も大切にしており、可能な限り個別に対応することで、個に応じた学習となるような配慮も行っている。そして、一度の授業で内容を全て理解することが難しい生徒も多いので、常に生徒のタイミングで生徒に一番馴染み深いツールで授業を振り返ったり確認したりできるように、YouTubeによる授業動画を含め、授業のワークシート等も見直せるホームページを開設した。

このYouTube及びホームページは、授業を当日急遽欠席してしまった生徒に対しても継続的な授業の受講を可能にするため、生徒自身が授業を振り返られるようにという目的もあり開設している。この授業を履修する生徒は、音楽Ⅰ・音楽Ⅱを連続年度で履修している生徒だけではなく、1～2年のブランクがある生徒もいる。

このように、本校の授業は生徒の多様な実態により即した授業展開を心がけることを基本的な指導方針としており、全日制や定時制、そして特別支援学校で行われている授業の良い特性を混ぜ合わせた「ハイブリッド型の授業」を意識して計画・実施している。

《参考資料：対象生徒が器楽（和太鼓）の学習時に記した学習記録等》

★器楽（和太鼓）I 時間目に視聴したプロフェッショナルの団体による演奏動画の視聴感想（Google フォーム）

F	G	H	I
★印象に残った『演奏』はどれですか？	★その『演奏』は、あなたにとってどう聞こえましたか？素直な感想を記入してください。	★その演奏の中でも『特に印象に残った部分』はどこですか？具体的に記入してください。	★あなたにとって、様々な和太鼓演奏はどうでしたか？
松村公彦 大太鼓一本打ち（4番目；参考動画③）	強弱の付け方がすごくて、一人で叩いてるのに音がすごく大きくて凄かったです。叩く速さも早くて力強くてほんとにすごいです。叩き終わったあと絶対疲れていると思います。	大きい太鼓なのに強弱もすごくて音も大きくて本当にすごかったです。最後の最後まで力強くてやっぱりプロの人はすごいなと思いました。	3
舞太鼓あすか組（1番目）	迫力があってとても良いと思いました。	全部良かった	5
無限-MUGEN-（5番目；参考動画④）	楽しそうに演奏してた	後半の掛け声みたいなやつ	4
無限-MUGEN-（5番目；参考動画④）	とても力強かった	3人で同時に叩くところ	3
舞太鼓あすか組（1番目）	リズムが好き 抑揚の仕方が好きだった 締太鼓の音が好きってことに気づいた 人数がいるから音の迫力がすごいなあって思った	太鼓の上に乗るところ	4
舞太鼓あすか組（1番目）	リズムがしっかり揃っていてかっこよかった	段々音が大きくなる場所	3
坂本雅幸（鼓童）-渡腕日本人-（3番目；参考動画②）	素敵	大きい音からいきなり小さい音になる場所	5
舞太鼓あすか組（1番目）	迫力があってすごかった。	太鼓に登ったところ。	5
松村公彦 大太鼓一本打ち（4番目；参考動画③）	一つの太鼓だからこそ出せる迫力があってなと思った。大きい音、小さい音だけでなく感情的な色々な音がきこえてきた。ただ叩くだけでなく、体の動かし方とか声の出し方など表現力が大事なんだなと思った。	大きい音から小さい音に持っていく部分	4

★生徒の授業終了後の授業感想（抜粋）

・生徒 A

日付	内 容	目 標	自己評価 達成度	感 想	備 考
10/26	10/26 ①音楽の授業	E1-266666	A B C	たいして楽しかった。楽しかった。	
11/2	11/2 ①音楽の授業	E1-266666	A B C	E1-266666 全然楽しかった。E1-266666 (2022)	
11/9	11/9 ①音楽の授業	E1-266666	A B C	新しいリズムが楽しかった。初めて見た。とても楽しかった。	
11/16	11/16 ①音楽の授業	E1-266666	A B C	新しいリズムが楽しかった。楽しかった。	
11/30	11/30 ①音楽の授業	E1-266666	A B C	新しいリズムが楽しかった。楽しかった。	

・生徒 B

10 / 5	和太鼓 参観練習 が、風	難ない と	A	筋力が痛!!
			B	つらいよね!
			C	でも絶対 平氣に 存ぞ!
10 / 12	和太鼓 が、風	が、風	A	和太鼓の練習が、風
			B	
			C	せめて後習してあげ!! 懐かしい!!
10 / 28	和太鼓 が、風	が、風	A	和太鼓が痛!
			B	
			C	

・生徒 C

日付	内容	目標	自己評価 達成度	感想
10 / 26	和太鼓 参観	和太鼓の練習 が、風	A	和太鼓の練習が、風
			B	
			C	あ、まだだよ?
11 / 2	和太鼓 参観	和太鼓の練習 が、風	A	和太鼓の練習が、風
			B	
			C	その気持でやれ!!
11 / 9	和太鼓 参観	和太鼓の練習 が、風	A	和太鼓の練習が、風
			B	
			C	和太鼓!! 楽しもう!
11 / 16	和太鼓 参観の説明	和太鼓の練習 が、風	A	和太鼓の練習が、風
			B	
			C	和太鼓の練習が、風
11 / 23	和太鼓 参観	和太鼓の練習 が、風	A	和太鼓の練習が、風

・生徒 D

日付	内容	目標	自己評価 達成度	感想	確認
10 / 26	①スタートメニュー ②参観	和太鼓の練習 が、風	A	和太鼓の練習が、風	
			B		
			C	和太鼓の練習が、風	
11 / 2	①スタートメニュー ②参観	和太鼓の練習 が、風	A	和太鼓の練習が、風	
			B		
			C	和太鼓の練習が、風	
11 / 16	①スタートメニュー ②参観の説明	和太鼓の練習 が、風	A	和太鼓の練習が、風	
			B		
			C	和太鼓の練習が、風	
11 / 30	①スタートメニュー ②参観 ③中間発表	和太鼓の練習 が、風	A	和太鼓の練習が、風	
			B		
			C	和太鼓の練習が、風	
12 / 7	①スタートメニュー ②参観	和太鼓の練習 が、風	A	和太鼓の練習が、風	
			B		
			C	和太鼓の練習が、風	
12 / 14	①スタートメニュー ②フリースタイル発表 ③参観	和太鼓の練習 が、風	A	和太鼓の練習が、風	
			B		
			C	和太鼓の練習が、風	



★フレックス発表会を終えて自分たちの演奏動画を視聴したあとの感想（メンチメーター）

自分たちの発表を見ての感想は？

Mentimeter

最後わからなくなって恥ずかしかった
ミスが意外とあったw
赤堀くんがめっちゃかっこよかった！www

意外とできてた
皆良く頑張ってたと思う
恥ずかしかった
ちょっとミスってて笑ったw



和太鼓曲を創作しよう！

ゼミ名 _____ 番号 _____ 名前 _____

★「チーム名」を考えよう！

チーム名

構成メンバー 1. _____ 2. _____
3. _____ 4. _____

①「タイトル」(テーマ)を考えよう！

タイトル(テーマ)

どんなイメージ?:

② 曲のテンポはどれくらいかな? _____

③ 拍子はどうする? _____ 拍子 _____

④ リズムモチーフを考えよう！

★「リズムモチーフ」は、「15の手順表」や「リズムパターン表」の何番を参考にしましたか？
(参考にした番号を記入しておこう！)

① と ② と ③ と ④ と ① と ② と ③ と ④ と

1. _____ 2. _____
3. _____ 特になし(オリジナル)

短太鼓 タイトル : チーム名 _____

① と ② と ③ と ④ と ① と ② と ③ と ④ と ① と ② と ③ と ④ と ① と ② と ③ と ④ と

長瀬太鼓

① と ② と ③ と ④ と ① と ② と ③ と ④ と ① と ② と ③ と ④ と ① と ② と ③ と ④ と

① と ② と ③ と ④ と ① と ② と ③ と ④ と ① と ② と ③ と ④ と ① と ② と ③ と ④ と

① と ② と ③ と ④ と ① と ② と ③ と ④ と ① と ② と ③ と ④ と ① と ② と ③ と ④ と

担当楽器 _____ ゼミ名 _____ 番号 _____ 名前 _____

Jamboard による班別協議資料

第1班：川上（伊勢崎）、須田（吉井）、田中（高特）、小野澤（太特）

本時における学習内容は、「指導事項」とどのように関連するか

A表現（3）創作 A 階表現での学習を踏まえ、手元にある音符・休符やリズムパターンプリント、先輩の作品などを適宜参考にすることで、知識や技能をうまく創作表現に生かしていた。

本時の学習目標を達成することで、どんな「育成を目指す資質・能力」が身に付くか

本時の展開で、「主体的・対話的で深い学び」となっていた場面はどこか

主体的な学び 赤い服の女子が、自ら机を叩きながらリズムを考え始めた場面。同じチームの男子も徐々に鉛筆でリズムを打ち始めた。

指導事項イ 初めにチーム内でイメージについて対話し、しっかりと共有したことでリズムの工夫につながっていたと感じる。

対話的で深い学び お互いの作ったリズムや、出した意見を尊重し合いながら、楽しみながら創作活動に取り組んでいる姿が印象的だった。

chromebookのドラムマシンを活用することで、リズムについての記譜の知識と技能を習得することができると思う。

対話的な学び 「卒業」というテーマに基づいて、友達や周囲に「気分が上がるか下がるか」リサーチしていた場面があった。

導入から生徒の気持ちをほくして授業に主体的に取り組めるような工夫がされていた。モチーフ作りでは、意見交換がしやすく、対話的な学びの場が用意されていた。

視覚的な支援が充実していて、学びをサポートしていた。

グループ学習が大変意見の出しやすい雰囲気で行っていたが、グループ分けの配慮の仕方などあれば教えて下さい。

WSのリズムモチーフの記入の仕方は、生徒にとってなじみのある学習だったのでしょうか？写譜とは記入の仕方が異なっていた。

見直しを持たせるための説明と、情報量のバランスが難しく感じた。前時の授業説明動画で、発表会に向けた練習手順まで説明すべきだったのかどうか・・・？何か意図があったら教えてほしいです。自分の日々の指導の悩みでもあります。

授業者への質問

第2班：斎藤（渋女）、黒岩（高崎）、荒木（吉井）、須田（渡良瀬特支）

本時における学習内容は、「指導事項」とどのように関連するか

生徒が表したいイメージに対して、例を出してリズムを提示してみせたりしゃべったので、音型などの特徴を理解しやすかったと思います。声かけが絶妙だと思いました。

創作表現に関わるこれまでの知識を生かしながらさまざまな手法を活用しようとしていた。

＜表現力＞頭の中にある、形のないものを形にする力が身につくのではないかと思えます。形のないものをツールを使って可視化して整理し、形にしていくという手順を踏む経験を積むことは、将来、仕事に就いたときにも役に立つと思います。

和太鼓特有のリズムを知覚しながら、イメージに沿ったリズムを表現意図をもちながら創作している姿がみられた。

言葉によるイメージを、音やリズムへとうまく繋げていたと思う。

本時の展開で、「主体的・対話的で深い学び」となっていた場面はどこか

グループごとのイメージを共有しながらリズムモチーフを考えたい

先生のアドバイスに基づき、細かいリズムを使ったり職車の音のイメージをリズムで表わそうとしていた。

人任せにするのではなく、主体的に参加し、グループのメンバーとしての責任を持って参加している様子が見られました。ここまで生徒が奮起できるようになるには先生が相当努力されて下地を作ったのだと思います。

グループ活動の場面です。ひとりで作った方が作りやすい生徒もいるのかもしれませんが、お互いのアイデアを認め合い、ひとつのものを作り上げようとしていました。協働して音楽活動していたと思います。

ドラムマシンで作ったリズムを、プリントに転記したり実際に叩いたりすることで難しさを実感したりイメージとリズムの関係性について、実感をもって学びを深めていた。

授業者への質問

第3班：五十嵐（長野原）、角田（安中総合）、富岡（安中総合）、野口（太高特）、柳田（館高特）

本時における学習内容は、「指導事項」とどのように関連するか

本時の学習目標を達成することで、どんな「育成を目指す資質・能力」が身に付くか

本時の展開で、「主体的・対話的で深い学び」となっていた場面はどこか

主体的一人一人が話し合いに参加できていた。

ア：今まで学習した曲から想起したリズムや、教師とのやりとり、偶然の中から生まれたリズムを、自分で工夫しようとしていた。教師の方で、この後つなげやすいリズムを選択できるように促しがあつた。

イ：ドラムセットを使ってリズムの重なりを工夫する活動

知：技前年度の作品を参考にし、伝承していく。

伝承方法：著作権についても触れると更に理解が深まる。

対話
グループ活動で、生徒一人一人が発言し、対話できていた。先輩の作品を参考にしたり作品を通して対話していた。

ウ：ドラムマシンで自然に反復を感じながら重なりを考えることができた。

伝承方法：作った作品が次年度の生徒に受け継がれる。

写譜することが伝承していくことにつながる。

深い学び：前年度の生徒の作品を鑑賞することでより深く理解することにつながる。

思：知識や技能を得たり活用したりして音楽表現を工夫する。

学びに向かう力・グループ活動を通して、主体的に取り組んでいた。

授業者への質問

第4班：大和（西邑楽）、坂本（館女）、松平（尾瀬）、西田（赤城特）

本時における学習内容は、「指導事項」とどのように関連するか

本時の学習目標を達成することで、どんな「育成を目指す資質・能力」が身に付くか

本時の展開で、「主体的・対話的で深い学び」となっていた場面はどこか

間違えてもよいという雰囲気のため、活発に意見を伝え合い、対話的な学びが促進されていた。

最初にグループで高音のイメージを共有することで、「リズム」や「構成」をどのように工夫しているかということを考えていることにつながっていた。

過去の動画を見たりしながら、音楽を形作っている要素の働きを変化させ変奏とまではいかないかもしれないが、工夫しようという技能が身についた？

リズム、音価等の知識

グループで制作した楽曲を演奏するために、共通して認識できるもの→楽譜が必要であるということに気づき、必要感をもって制作の表現を創意工夫するための技能を身に付けることにつながる。

ムジカのドラムマシンを使った場面→偶然できたリズムだから楽譜？音符？にできない→教諭に助けを求め取り組む、解決しようとする場面。

オリジナルの創作曲という目標を共有することで、自分が主役という意識をもって学習に取り組んでいた。

ドラムマシンを活用したことで、反復・変化・対照などの構成できていた。

完成したリズムモチーフをどのように変化させるか（→変奏）という、次への見通しをもっている生徒もいた。

コミュニケーション力

リズムの反復による技能

先生から提示されていた（プリントで配られていた）リズムパターン、見本？は新と録しレベルかと思いましたが、生徒はだいたい理解ができていたのでしょうか？

個性を生かした音楽表現を創意工夫する力→音楽で表現するための様々な方法を選択し取り組む力が身につく。

よいところを認め合う→学びに向かう力・人間性等

イメージから「リズム」や「構成」を考える際に、グループで反対の意見が出ていたが、（ゆっくりと速いなど）それはなぜかということも理由を含めて相談し、結論を出そうとしていた。

授業者への質問